



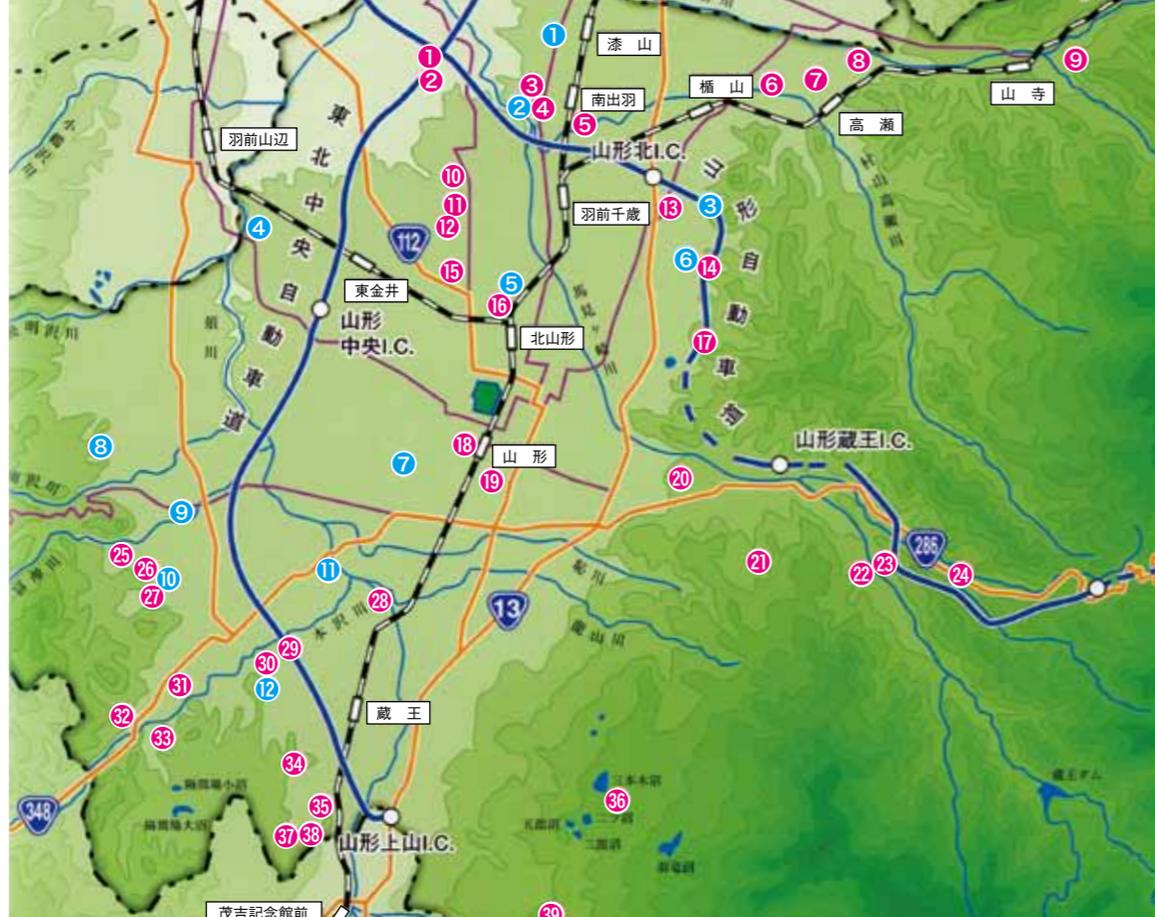
↑20 熊ノ前遺跡



↑12 嶋遺跡



↑19 山形西高敷地内遺跡



↑9 大之越古墳



↑12 谷柏古墳群



↑10 菅沢古墳群

*** 遺跡の学び方 ***

山形市には380カ所以上の遺跡がありますが、ほとんどは土地の下で保護されています。

興味がある遺跡について次のことを参考にして学んでみましょう。

- 1 インターネットで検索し情報を得る
- 2 図書館で発掘調査報告書を探す
- 3 発掘されたものを見に行く

- (1) 山形市内の場合
- ① 山形市文化財展示室 (山形まなび館内)
 - ② 嚶鳴考古館1階 (山形西高等学校内)
 - ③ 山形県立博物館 (霞城公園内)
 - ④ 尚古館 (明円寺)

- (2) 山形市外の場合
- ① 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 (まほろば古の里歴史公園内) 高島町
 - ② 山形県埋蔵文化財センター特別収蔵室 (見学は事前に要連絡) 上市市

※見学の際は研究員や係の人にお話を聞くと、遺跡のことや昔のくらしがよくわかります。

原始・古代関係略図 (主要な古墳と遺跡等)

- 古墳・古墳群**
- ① 衛守塚古墳群
 - ② 狐山古墳群
 - ③ お花山古墳群
 - ④ 去手路古墳群
 - ⑤ 宮町古墳
 - ⑥ 高原古墳
 - ⑦ 石関古墳
 - ⑧ 村木沢古墳群
 - ⑨ 大之越古墳
 - ⑩ 菅沢古墳群
 - ⑪ 前明石古墳群
 - ⑫ 谷柏古墳群
- 遺跡等**
- ⑬ 馬洗場B
 - ⑭ 大森齊当
 - ⑮ 嶋
 - ⑯ 双葉町
 - ⑰ 松留
 - ⑱ 埋没林
 - ⑲ 天神山
 - ⑳ 藤治屋敷
 - ㉑ 大森A
 - ㉒ 鷲ノ森
 - ㉓ 向山
 - ㉔ 沢田
 - ㉕ 山形西高敷地内
 - ㉖ 山形
 - ㉗ 山形北I.C.
 - ㉘ 南出羽
 - ㉙ 南出羽
 - ㉚ 南出羽
 - ㉛ 南出羽
 - ㉜ 南出羽
 - ㉝ 南出羽
 - ㉞ 南出羽
 - ㉟ 南出羽
 - ㊱ 南出羽
 - ㊲ 南出羽
 - ㊳ 南出羽
 - ㊴ 南出羽
 - ㊵ 南出羽
 - ㊶ 南出羽
 - ㊷ 南出羽
 - ㊸ 南出羽
 - ㊹ 南出羽
 - ㊺ 南出羽
 - ㊻ 南出羽
 - ㊼ 南出羽
 - ㊽ 南出羽
 - ㊾ 南出羽
 - ㊿ 南出羽

2 土地に刻まれた歴史

縄文～飛鳥

熊ノ前遺跡と縄文のくらし

山形県庁前の熊ノ前遺跡からは、縄文時代中期(約4500年前)の竪穴住居跡や土器・石器がたくさん発見され、当時の人々の生活を復元する資料が得られています。

縄文時代になると、人々は、初めて土器と弓矢を使うようになり、竪穴住居に住み、石器や骨角器で、四季折々の動植物を食べてくらししていました。男の人は馬見ヶ崎川で魚を捕ったり、近くの山で猟をしたり、女の人たちは村の周囲や千歳山などから収穫したドングリをアク抜きし、粉にしたりしていたようです。

山形西高敷地内遺跡に見る村づくり

山形市鉄砲町にある県立山形西高等学校の敷地からは、県内で最も多くの住居跡が発見されています。馬見ヶ崎川扇状地の扇端部近くに営まれた集落遺跡で、縄文時代中期から平安時代までの約3300年間にわたって生活の場になった所です。発掘調査で、何度も洪水にあいながらも人が住み続けたことが明らかになっており、それだけ生活に適した土地であることを物語っています。



山形に住む先人たちが残した痕跡をもとに、古代からの人々のくらしを見つめてみましょう。

嶋遺跡と飛鳥時代のくらし

古墳時代には、平野部を開墾し、大規模な水田が営まれるようになりました。嶋遺跡からは、建物跡や木器・土器・装飾品・植物の種子などがたくさん発見され、古墳時代終り頃の人々のくらしを具体的に復元する手がかりが得られています。

今から約1500年前の嶋遺跡の人々のくらしは、平地住居でくらし、食料を蓄える倉庫もあり、村の周りには水田が広がっていました。武器や馬具が出土していることから、この地方の有力者が住んでいたと考えられます。

山形市の古墳群

山形市には、大之越古墳、谷柏古墳群、菅沢古墳群など、南西部に多くの古墳が見られます。

菅沢2号墳は、古墳時代中期(約1600年前)に菅沢丘陵の中腹に築造された直径50mの円墳で東北地方では最大級です。埴輪も多数見つかかり、関西地方のもの比べても遜色が無く、当時この地域に中央の勢力と密接なつながりをもった首長がいたと推測されます。

ミニ知識 1

山形の地名と最初の歴史記述

山形県の「山形」は、平安初期の資料「和名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)」によれば、今の山形市の南側を「山方(やまがた)郷」と言ったことに由来があると言われています。なぜここを山方と言ったかは不明ですが、今の山形市より見て南のほうには、山岳信仰で知られた蔵王、瀧山の山々があります。

その後この山方という地名は、いったん資料から見えなくなるのですが、南北朝時代に斯波兼頼が政治の拠点をもこの地に置き政治が安定してくると、土地売買の文書などに山形という地名が改めて見えてくるようになります。